

第5学年学級活動(2)指導案

日 時：令和〇年〇月〇日(〇)〇校時
学 級：第5学年〇組〇名
場 所：5年〇組教室
授業者：〇〇 〇〇〇

1 題材 「グループトークの使い方」(出典：LINEみらい財団「SNSノート」を参考に改変) 学級活動(2) イ よりよい人間関係の形成

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童のSNS経験率は7割～8割であり、近いうちに全員がSNSを介したコミュニケーションをとるようになると思われる。グループトークについても半分ほどの児童が経験しており、そのよきとして、一斉に同じ情報を同時に送ることができる点を挙げている。現在は、家族や親しい友達とのコミュニケーションをとるために使用していたり、保護者の所有する携帯電話やタブレットを借りて使用したりしている児童もおり、大人の目の届く範囲で使用している児童が多い。これまでにそれを基にした大きなトラブルは見られないが、よりよい使い方をするために気を付けることを、今のうちに学習しておくことは重要である。

(2) 題材の設定の理由

オンライン上でのコミュニケーションについては、1対1の場合やグループトークなどの1対多数の場合がある。特にグループトークは、複数の友達に一斉に用件を伝えられるというメリットがあり、社会では広く使われるツールとして認知されている。一方、一斉にメッセージを伝えられるからこそ、受け手の中には直接関係のない用件を受け取ってしまったたり、知らなくてもよい情報が広く知れ渡ってしまったたりすることから、トラブルにつながる場合がある。本時では、グループトークの事例を基に、自身が発したメッセージが及ぼす影響を認知し、よりよい使い方をするための理解を促し、善き使い手となる態度を養う。

3 評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、健全な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自主的に課題解決に取り組み、他者と信頼し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

4 本時のねらい

グループトークを活用し、情報や自分の考え、気持ちを上手に相手に伝える方法について考える。人数が多い(相手軸が増える)ときのコミュニケーションにおける危険(リスク)を予想することの重要性に気付き、自分の行動を見直すことができるようにする。

5 本時のキーワード

・グループトーク

複数の友達と同時に会話できる機能

6 本時の展開

時間	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿
導入(つかむ)	<p>1. グループトークも含め緊急時の連絡方法にはどのようなものがあるか考える。</p> <p>2. めあてを提示する。</p>	<p>○グループトークという言葉の意味の確認、利用の有無を尋ねる。</p> <p><予想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話 ・メール ・グループLINE <div data-bbox="552 680 1331 891" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>説話</p> <p>はなこさんは、仲よしの6人の友達と4時に自分の家で遊ぶ約束をしていた。でも、急に用事が入り、5時にしか来てもうことができなくなった。</p> </div> <p>○どのような方法で連絡するとよいのか考えられるようにする。</p> <p><予想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・短時間に多くの人に伝えることができる。 ・同じ内容を間違いなく伝えられる。 ・文字情報なので残る。(後で確認できる) <p>○グループトークのよいところを考えられるようにする。</p>	
<p>グループトークを使う時に、何に気をつけるとよいのか考えよう</p>			
展開1(きぐる)	<p>3. 1対1のペアトークの画面(A)とグループトークの画面(B)の2つのパターンを例示し、それぞれどのようなようになっていくか予想する。</p>		

(A)

たかし

16:55
既読
今日、たかしさんが教室の掃除してたね

16:55
既読
たかしさんってまじめだよ

<板書例>

(A) 1対1	(B) グループ
<ul style="list-style-type: none"> ・まじめってあまり言われたくないんだよね ・ありがとう。気づいていたんだね 	<ul style="list-style-type: none"> ・本当だね ・いつも助かる ・まじめすぎて困るよ ・〇〇のときもまじめだったよね

日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、健全な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。

【知識・技能】

(B)

グループ(12)

16:55
既読
今日、たかしさんが教室の掃除してたね

16:55
既読
たかしさんってまじめだよ

○トークがどのようなかを予想することで、1対1のペアトークとグループでのトークの特徴を理解できるようにする。

○人数が多いと「まじめ」という言葉が異なる意味で伝わるリスクが高まることに気付けるようにする。(よい印象をもっている児童や悪い印象をもっている児童がいるということ)

4. ここまでのまとめをする。
(ワークシート1)

○同じトーク内容でも人数が多いほど、多様な捉え方をする人が増えるので自分の意図とは違う捉え方をされる可能性が高まることに気付くようにする。

展開2(見つける)

5. 2種類のグループトークについて考える。
(ワークシート2)



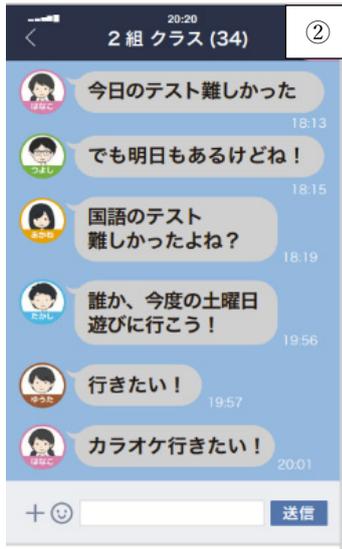
○①、②についてそれぞれ状況を説明する。

①のグループトーク

- ・塾のグループだということ。
- ・23:41 という遅い時間である。
- ・たかしが「誰かまだ起きてない?」と送った後、ゆうたは「GOODNIGHT」とスタンプを送っている。

②のグループトーク

- ・グループがクラスだということ。
- ・カラオケに行けない人、好きではない人もいるということ。



・あかねが「国語のテスト難しかったよね?」という言葉に誰も答えていない。

○それぞれについて考え、よい点、リスク(危うさ)についてワークシートにまとめるようにする。

○①、②一つずつする。

感情を確認

○誰がどのような感情になるのか、相手軸(グループのメンバー)で考える。

<予想>

①良さ みんなテストを頑張ろうという気持ちになる。

危うさ たかしがとても不安になる。

②良さ みんなの楽しみができる。

危うさ あかねが無視された形になっている。

原因を特定

○交流し、お互いの考えが確認できるようにする。

○判断の根拠を共有することで、リスク(危うさ)を予想する際の判断の視点に気付くようにする。

対応を検討

○グループ人数、写真転送、送信時間、メッセージ内容など判断の視点を説明できるように促す。

まとめ(決める)

6. グループトークを使う時には、何に気を付けるとよいと考えたのか、またその時、意識していきたいことはどのようなことなのか記入する。
(ワークシート3)

○本時を振り返り、グループトークを活用する時に気を付けることを決められるようにする。

行動の準備

○ワークシートを持ち帰り、家の人と学びを共有できるようにする。

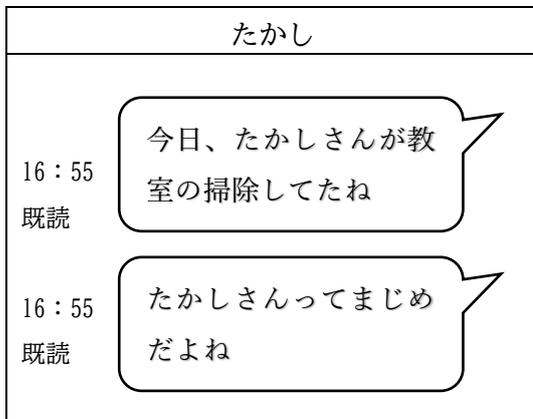
自己の生活をよりよくするために、友達と交流しながら、よりよい人間関係を形成しようとしている。

【態度】

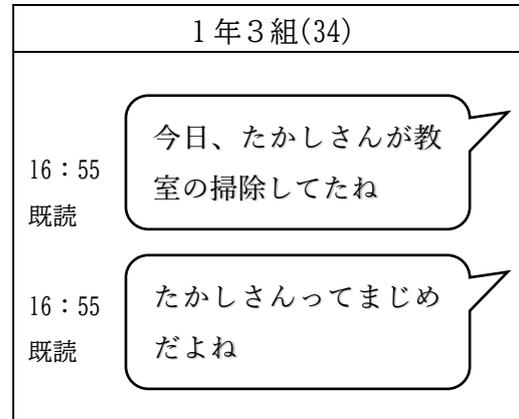
資料「グループトークの使い方」

はなこさんが送ったメール

(A)



(B)



それぞれのトークについて、よい点とリスク(危うき)を考えてみましょう

トーク①



トーク②

